

第1回 宮代町総合計画審議会会議要旨

日時 平成27年5月28日(木)

午後6時30分～9時10分

場所 宮代町役場202会議室

【出席者】

会長：佐々木 誠

委員：折原 昇・川野武志・浜野芳男・塩澤 正・小田桐静子・渡邊朋子・鶴見城二
竹脇真悟・伴 光雄・浅倉孝郎

町：町長・大橋企画財政課長・菅原主幹・榎本主査・小島主任

【会議要旨】

佐々木会長：次第にしたがい議題について事務局より説明をお願いする。

事務局：議題(1)～(3)について説明

(1) 第4次宮代町総合計画と地方版総合戦略との関係(資料1)

(2) 第4次宮代町総合計画について(資料2)

(3) 前期実行計画事業の進捗状況について(資料3)

※ここまで質問事項なし

《休憩》

議題(4) 宮代町住民意識調査結果について(資料4)

佐々木会長：さきほどの説明の実行計画事業の内容については、皆さんの専門分野の経験や知識を踏まえ今後意見を頂きたいと事務局が考えているようなのでよろしくお願ひしたい。引き続き議題(4)について事務局から説明をお願いする。

事務局：議題(4) 宮代町住民意識調査結果について(資料4)について説明

佐々木会長：質問やご意見などはありますか。

浅倉委員：意識調査の回答者の年齢にバラつきがある。高齢者の意見が多く、これから子育てをする世代の回答が少ない。私が聞く限りでは、若い人の間で、都市開発へのあり方に関して、それほど積極的ではないと思う。教育に関する質問の回答についても、ほぼ子育てが終わった世代の回答が多く反映している。この年齢の偏りはなぜなのか。

事務局：町の各年代の割合に応じて均等に無作為抽出しているため、どうしても高齢者が多くなってしまふところである。ただ、年代別にどう思っているかもクロス集計でわかるようにしています。

浅倉委員：10代の回答者については全体の1.4%である。次回調査を行う時は、年代ごとの回答率について公平性のあるものにしていただきたい。

佐々木会長：なかなか難しいところであるが、別な計画作りの際に、ワークショップなど他の方法を活用するということがあったので、やりようはあるかもしれません。

事務局：後ほど説明させていただく部分ではあるが、この意識調査のほかに15歳から40歳を対象とした地方創生にかかるアンケートも別途実施しているので、そちらで若い世代や子育て世代の意見を把握することは可能と考えている。

佐々木会長：回答者の中で宮代の居住年数が長い人と短い人との回答率の差が大きい。回答者の割合としては、20年以上の居住年数の方が70%以上。居住年数が短い人たちはどうすれば宮代町に長く住んでもらえるか、という視点も重要だと思います。この点について事務局はどう考えているのか。

事務局：結果として、居住年数が多い方の回答が多くなっているが、町では、地方創生にかかるアンケートとして、町から転出した方を対象に、転出の理由などを把握するための調査を実施している。次の会議では、こちらの結果も提供していきたいと考えている。

議題（５）宮代町人口ビジョン及び総合戦略の策定について（資料５）

佐々木会長：事務局、議題（５）について説明をお願いしたい。

事務局：（５）宮代町人口ビジョン及び総合戦略の策定について（資料５）説明

※質問なし

議題（６）総合計画審議会の今後のスケジュールについて（資料６）

佐々木会長：事務局、議題（６）について説明をお願いしたい。

事務局：（６）総合計画審議会の今後のスケジュールについて（資料６）説明

議題（７）後期実行計画及び総合戦略策定にむけた意見交換

佐々木会長：本日は事務局からの説明が主体となった。各委員の意見は、資料３の事業一覧の中の審議会意見欄に記入いただきたい。では、議題（７）後期実行計画及び総合戦略策定にむけた意見交換にはいる。何かご意見がある方は。

浅倉委員：前回の総合計画審議会同様、最重要課題は、子育て世代を定住させたいというところであり、計画の中でこれに合うもので「子育てちょっと・ほっと・ひと息事業」がある。この事業の内容に子育てカフェというものがあるが、昼間カフェに行けるのは専業主婦である。今の時代、子育て世代に専業主婦は少なく共働きが多いので抜本的にこの点を検討いただきたい。

折原委員：道仏地区の開発は、人口減少に歯止めをかけているところであるが、もう少し東武動物公園駅に近い場所を開発していただきたい。駅までの通勤時間15分が一つの目

安である。農業委員会の12市町からなる埼玉葛地区協議会で話題になった。宮代町は動物園もあり交通の利便性もあるのになぜ人口が増えないのかと、越谷市は自然と人口が増えると聞いた、商業施設や医療施設などが充実していて、それだけ魅力がある街ということだろう。

伴委員：東武動物公園は年間来客者数が120万人くらいいる。そのうち6割は、西側の幹線道路から、4割くらいは宮代町側から来場している。その約50万人を宮代町の賑わいに活かせればと思う。

鶴見委員：総合計画の策定については最初から携わっている。この総合計画は、それなりに良くできていて、それなりに進捗している。しかし、世の中は様変わりしているので、根本的に見直すべきものの中にはあるのではないかと思う。たとえば農地。私は東条原に住んでいて、日本工業大学のあたりから田んぼが広がっているが、最近、相当空き始めている。去年の米価の落ち込みで、耕しても生活ができない。周辺で30町歩ほど耕していた農家も止めてしまいました。東条原にもその方の農地があります。一方で、新しい村が受託して耕していた農地で、未だに手付かずのところがある。どうしてこうなってしまったのか。農家の間では、新しい村が解散してしまうのではといううわさも出ている。新しい村は、農あるまちづくりの中心的存在として総合計画に位置づいているが、以前とは状況が変わってしまった。どうやって農あるまちづくりを進めるのか、もう一回考える必要がある。

折原委員：国は農業委員を減らす方向を打ち出している。農業委員は今でも人が足りていない。農業委員は農地転用の許認可のほかに遊休農地の解消として、遊休農地を整備しそこを耕作してくれる耕作者をさがして農地を託すという仕事をしている。だが現在その耕作者が見つからない。そのため新規就農者の育成が必要となり行っているが、育成は3年という期間とお金がかかるし、3年ですぐに一人前にはならない。お米の生産では生活が難しいので、施設園芸をすすめるが、機材や農機具なども必要になってくるし、農地を持つとしても、5反要件として5反農地を持っていないと農地を購入できないということもある。そのため、新規就農者は農地を借りて耕作しています。

鶴見委員：新規就農者が農地を取得して耕作を始める以前に、空き農地を解消する取り組みとして、新しい村が受託して農地を耕作するシステムができていた。しかし、今年はその新しい村の耕作者たちがやめてしまったらしい。新しい村は、総合計画の最重要項目だと私は思っている。この議論がなくて、前期実行計画の進捗を見て、後期実行計画についても、その延長線上でものを考えるようであれば、私たちが集まった意味がないというくらい根本的な部分に問題がある。新しい村の社長が、ころころ代わって会社の体を成していない。

竹脇委員：子育て世代の施策を町だけで行っていくのは難しいと考える。若い人がなぜ結

婚しないのか。色々な原因があると思うが、若い人の中に非正規雇用が増えていることも原因だと思う。収入が少なく自分の生活を守るのに精一杯。こういう状況で結婚して子どもを生み育て、生活していくのは非常に難しくなっている。国が本気で考えないといけない。その上でどうやって人口を増やすかだと思う。一つには、子育て世代も大事だが、高齢者にとって住みやすく、ここに住んでよかったと思えるような点があるかどうか、こうした視点も大事だと思う。お金をかければ施設も作れるが、それも難しいので、質で勝負だと思う。例えば、小学校地域にグループホームを作り、その地域からグループホームの介助員を雇う、そして地元の野菜をグループホームの仕入れに活用するなど、地域循環型で考える必要があると思う。あるいは、保育の面についても断トツで安くすることは難しい。どの自治体も保育料の値段合戦になっている。保育に関しても農業体験ができるとか、はだし教育とか、安さだけでなく質の高いものへのニーズもあると思う。施設を沢山作るとか、開発を沢山するとかについては、やっぱり都心に近い南の自治体には勝てない。そうじゃなくてどうするか。私はそうではなく、宮代町の小さい地域というのは、ずごくいいなと思う。町民体育祭のように顔が見える自治体というのがいい。参加自治会が減っているのは残念だが。こういう資源を使いながら、顔が見えるところで福祉をしたり、顔が見えるところで子育てを進行したりする、そういう方向性が見出せると、「宮代町っていいな」と思ってもらえるのかなと思う。

渡邊委員：私自身も子育て中なので、子育て世代の方とよく話しをしますが、宮代町は子育てしやすい環境だから住みたいと町外の方からよく聞く。私自身も環境もいいし、子どもにとってもいい場所だと思う反面、子どもが置かれている環境は、自然環境だけでなく、ひとり親が多かったり、共働きが多かったり、発達の問題を抱えている世帯も実は多いのではないかと感じている。こういった方々が、自分たちが抱えていることに対して話をする場であるとか、子どもを受け止める場が少ないのではないかなと思う。小さい町だからこそ、地域の人と一緒に子どもたちの見守りやケアができるのではないかなと思います。こういった部分で質が上がると、潜在的に困っている人たちにとっても住みやすくなると思う。こういった部分についても今後話をしていきたい。

小田桐委員：これまでの資料の説明の中で、保健センターや六花、ひだまりサロンなどがあったが、福祉施設を中心となる施設が町にはないと思う。また、前期実行計画の中で就労継続支援A型事業所に関しても計画の目標は達成していても、まだまだ需要はあると考える。社会福祉協議会でも日常的に相談を受ける。子育てにプラス福祉の側面を併せて一元的にサポートしていけたらいいのではと考える。

川野委員：商工会の立場としては、農あるまちづくりを全面的に展開していくのは少し怖いと思う。この町は農村地で幹線道路もなく昔から産業が育たない町であった。商業を営んでもやはり流通のあるよそに移り住んでしまうため雇用の創出に結び付かず残念である。雇用があれば町に住む人も増える。せつかく3つ駅があるので開発により若い世代を呼び込めればいいと思う。

浜野委員：金融の面からすると、去年より住宅ローンの申込みや借り換えなどが増えてきている。やはり道仏地区や駅に比較的近い場所の開発のおかげかと思われる。特に、若い方で共働きの方が多い。春日部に比べて土地の値段が安いのも要因だと思う。この点をもっとPRできたらいいと思う。

鶴見委員：東武動物公園駅も便利だが、個人的に和戸駅もとても便利になったと思う。東武動物公園駅などは始発電車があるから、座って都内までいけるので都内への通勤者にはとても便利な場所である。町にはこうした便利な体験をした方が多くいるので、こうした体験談などを活かしてPRした方がよい。

佐々木会長：いろいろ各委員から意見をいただいた。この他にもメールやFAXなどで各委員から意見を受けられるよう事務局も検討している。

議題（8）次回会議の日程調整について

事務局：次回の日程調整をお願いしたい。第2回の会議は7月13日の月曜日で同じ時間18時30分からこの会場でと考えているがみなさん都合はいかがか。

（都合のつかない者なし）

では7月13日に第2回を開催するのでみなさんお願いします。また、報酬の支払いは全会議終了後に払い込みとさせていただきます。